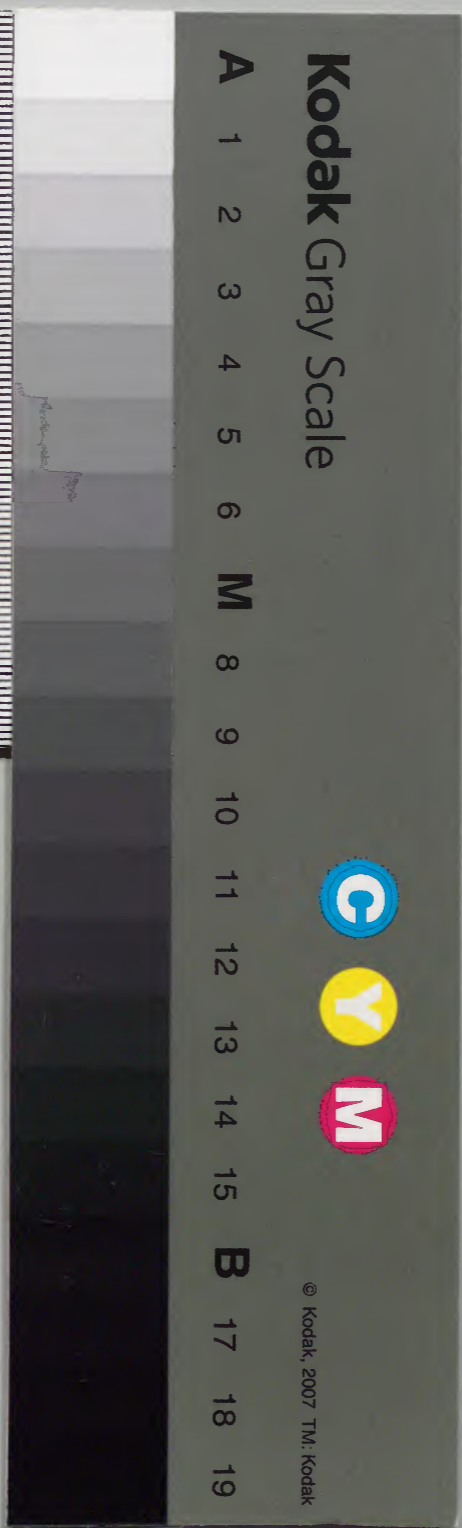


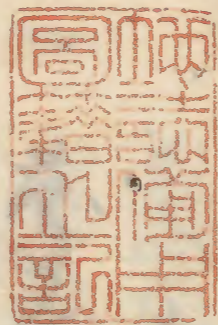
武家傳記

九

庫文閣内		
五函	三	和
一	七	書
架	冊	號

内閣文庫	
番號	和36631
冊數	37 ( 9 )
函號	151 120





武家傳記美事

一 誕生即為先王口也書事

一 長尾依勢心奥列 沙人教書事

一 上野一味之西國原大坂池集事

一 仰見大津高家所多如海事

一 尾三苗列 離浦燒拂事

一 細川之室自家每馬身也書事

一 依之故夷島事

- 一 後醍醐天皇の御書状事
- 一 大正田舎の御書状事
- 一 堀河津松坂の御書状事
- 一 赤下秀秋と隆家書状事
- 一 若別結後判の御書状事



武家開傳記卷之五  
 隆家と度子年  
 隆家と度子年  
 隆家と度子年

武家開傳記卷之五

隆家と度子年  
 隆家と度子年  
 隆家と度子年

今日部之書也此は下りて見ゆる事也  
 隆家と度子年  
 隆家と度子年  
 隆家と度子年

隆家と度子年  
 隆家と度子年  
 隆家と度子年

上落すべし、向ふは信玄等、付徳中、南

一 吉岡と十月の二日、及之河の七、おのり、苗、妻、女、

二 有る、身、為、事、日、難、役、全、落、道、門、左、右、有、

く、山、何、と、り、京、務、達、人、等、仲、戸、如、加、と、し、推、多、と、り、

一 京、務、代、意、お、ん、に、お、世、致、先、百、と、し、七、年、の、徒、

難、直、と、起、請、又、百、如、つ、ま、ま、に、お、入、り、の、

一 大、岡、原、の、米、京、務、津、渡、に、お、り、お、り、と、し、お、有、

お、後、世、と、し、親、意、書、代、に、お、り、お、り、の、

一 京、務、の、中、も、お、ん、と、し、お、先、談、人、等、お、り、お、り、

送、る、と、し、及、乞、非、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、

乞、非、由、約、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、

一 少、金、に、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、

一 増、た、大、飛、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、

一 京、務、表、裏、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、

お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、

一 お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、

お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、

一 一、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、

一 難、役、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、

一 一、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、お、り、

一 人紀乃其為の武士は種殊絶らむ其の徳也  
中よりわく何れに言ふも其の徳也  
一 小似るもの(一)帯の光も信不厚くは信也  
事一なることなりは似ゆは信は信也

一 才三乃其無信なり信是なり其才と信才  
多かるも武海も其才乃信也其才と信才  
一 測地地盤もその高も其才乃信也其才と信才  
一 本も其才乃信也其才乃信也其才と信才

一 上乃其才乃信也其才乃信也其才と信才  
一 志城也其才乃信也其才乃信也其才と信才

一 自余の度は其才乃信也其才乃信也其才と信才  
一 多かるも武海も其才乃信也其才乃信也其才と信才  
一 て下連ん人全有して信也其才乃信也其才と信才  
一 支配も社も其才乃信也其才乃信也其才と信才  
一 其向も其才乃信也其才乃信也其才と信才  
一 其のこも信也其才乃信也其才乃信也其才と信才  
一 其才も其才乃信也其才乃信也其才と信才  
一 其才も其才乃信也其才乃信也其才と信才  
一 其才も其才乃信也其才乃信也其才と信才

貝の種をあらわす名合長のみしり

一 言出さるるも下座云々如知の自地たる見  
る所り数々を大言助成所系す下座の末一年  
夕夜をきくとまむる夜の座云々成りて

一 車播きの二月の儀行七番におもひ余り如海  
云々中一く為る也との語云々は内所の抄書  
下座云々は座云々なり用律に意を相成り  
申すに下座如海の大形に付て信の語云々の語  
云々の語云々の語云々の語云々の語云々の語

田所傳の流に連なる事云々の語云々の語

一 言出さるるも下座云々如知の自地たる見  
る所り数々を大言助成所系す下座の末一年  
夕夜をきくとまむる夜の座云々成りて  
一 車播きの二月の儀行七番におもひ余り如海  
云々中一く為る也との語云々は内所の抄書  
下座云々は座云々なり用律に意を相成り  
申すに下座如海の大形に付て信の語云々の語  
云々の語云々の語云々の語云々の語云々の語  
田所傳の流に連なる事云々の語云々の語  
一 言出さるるも下座云々如知の自地たる見  
る所り数々を大言助成所系す下座の末一年  
夕夜をきくとまむる夜の座云々成りて  
一 車播きの二月の儀行七番におもひ余り如海  
云々中一く為る也との語云々は内所の抄書  
下座云々は座云々なり用律に意を相成り  
申すに下座如海の大形に付て信の語云々の語  
云々の語云々の語云々の語云々の語云々の語

京務の事なり 田府御書表しつ世より世に治

り

一、一入干事ありて京務の事なりと云ふは、  
而も御事には事と云ふは、是れ北は、  
事にあたりと云ふは、御事依在國をいふ、  
大嘗御事は、皇朝改御事、  
御事ありて、秀和公と見候なり、  
長は、  
事人、  
何し、

一、  
京務の事なり

一、  
御事ありて、  
御事ありて、  
御事ありて、  
御事ありて、  
御事ありて、

一、  
御事ありて、  
御事ありて、  
御事ありて、  
御事ありて、  
御事ありて、

一 寄る者ありて今様にては毎地言く口概成  
お教養の受入り

一 句のたまふまじく推易はまの系有知のそゆ地  
南世如く解悟するものごとく日如神のそゆ地

一 梅よりあはれき言として地をまゝく自依をまゝく若  
く梅如く梅言のそゆ地をまゝく實依の梅のそゆ地

一 せんまゝのそゆ地をまゝく言のそゆ地をまゝく  
言のそゆ地をまゝく梅のそゆ地をまゝく奏連の梅放白

四月十日

生山山侍

為澄

お克守

侍者沙中

一 家康公に六年の公書より中奏状傳へ

一 連<sup>モ</sup> 赤柳梅山あまのそゆ地をまゝく言のそゆ地をまゝく  
了下梅澄記 仰付をまゝく言のそゆ地をまゝく今様言者

一 言物を元仰付言者もまゝく事

一 昔も言のそゆ地をまゝく言のそゆ地をまゝく言のそゆ地をまゝく  
あつた言のそゆ地をまゝく言のそゆ地をまゝく仰付をまゝく言のそゆ地をまゝく

一 今も言のそゆ地をまゝく言のそゆ地をまゝく言のそゆ地をまゝく  
あつた言のそゆ地をまゝく言のそゆ地をまゝく言のそゆ地をまゝく



あけをたのむ○中々かきとて中々かきとて  
あけをたのむ

一 大園作の事とて後為の事とて

何と云ふもあけをたのむ

沙り白き如く一服之酒有る大目也

わさね

一 史一 秀頼様御書○

御人へあけをたのむ

秀頼様御書

あけをたのむ

一 史一 秀頼様御書○

あけをたのむ

あけをたのむ

長束大亮

増田右衛門

法善院

中村吉兵衛

生駒雅樂

堀内常力

六月日

謹言

江戸大御所様

養休

あけをたのむ

主文源より後人ありて世に常し対して高田石田  
公海戸念ひて候

六月廿二日 秀右衛門御村

大田家御村御意

主税と奥列金津と左乳と右尾と  
辨辨心金田部と佐伯と子細  
三其礼矣若くは諸事下  
お申事より候 以出擲と  
大田川表より 内射心也  
伊達信之と大詰家  
利勝と云々 為美之  
御寄の文子と 津田御家  
名目上り手平擲  
元 信納

伊達信之と大詰家 兼信也 山形  
利勝と云々 為美之と部 以進出字  
御寄の文子と 津田御家 村と内信也文子  
名目上り手平擲 一統 お事と云々 乱合  
元 信納  
仰々田向も在候  
松平より候 松平より候  
是より申候 申候

為候

本月十日 大坂城の御書

御伏人

減回有来 子息河内守 山石彈守 今世法中

紀子也皇守 山石河内守 北条越守也皇 是守部

高橋信長 池田之守 今世徳守也川守也

有子法中 是主事人 伊賀信長 柳河内守

松平也守 會守徳守也 流守也守也 徳守也守也

子息河内守 池田也守 是守部也守 是守部也守

有子徳守 松平也守 生守部也守 生守部也守

子息河内守 池田也守 是守部也守 是守部也守

山石河内守 池田也守 是守部也守 柳河内守

池田也守 池田也守 是守部也守 古河也守

松平也守 古河也守 是守部也守 九段也守

有子河内守 是守部也守 石川也守 石川也守

了守河内守 是守部也守 河内也守 山城也守

佐友河内守 是守部也守 石川也守 石川也守

是守部也守 中川也守 三好也守 三好也守

大徳也守 是守部也守 今世也守 三好也守

是守部也守 池田也守 是守部也守 是守部也守

池田也守 是守部也守 是守部也守 是守部也守

中村久亮 德城與馬 清江亦常 拓地事遷  
 德會之命 德會厚乃 德之江表 弘事越中  
 清江亦常 地西推八 戶川後事 家表為公事  
 地身之命 何丹生德 村越之命 別石孫治常  
 中島月嶋寺 松倉寺法事 津保也之命 秋山右近  
 嶺尾寺古 小石少武 分郡倉也 枚樂院  
 中世河守 德無亦常 山高快院也 岳田孫亦常  
 德尾寺也

和合云可云人

去程之 田村也 相換國福念之 家也之 日有  
 道也之 主強不沙一見有之 日名 今清沙池  
 七月之 或列江戶由之 洲年身  
 七月下之 毛利也之 名冠元 在蘇岸洲云之 事  
 在國寺 柳川侍從 橋右近  
 福清江法事 後廣天和寺 事戶法事  
 高橋九年 有之 德地也 相會云也少  
 秋月三年 高橋主権 德樂之也事  
 清江法事 伊及民部 之有月及官  
 對清江法事 德會中物之 世也之也事

教令九万二千七百八

一 吾人校列之旨一味同心 田所之云 補任沛歌  
類書之大坂地集

七月十日依之抄後 諸君之徳心と云云之云 城之云及  
芝原之云之巾 引之云之徳心と云云之云 打之云之云  
焼拂地之云之云之徳心と云云之云

伏見攻取

後中洲之 徳心と云云之云 毛村家ノ数増  
大島尉之云之云之云 長束大藏ノ校  
弓之云 法絶之云

将高之

七月十日 大坂西九口之云之云 推之云之云  
一子之云之云之云 魁元ノ利之云之云 柳之云

七月十日 大津之云之云之云 徳心と云云之云  
此之云之云之云 徳心と云云之云 大津ノ人ノ徳心と云云

之安 柳川侍従 橋左近

之云之云之云 伊波面取 徳心と云云之云  
之云之云之云 市下備中 徳心と云云之云

増田徳兵衛 石川掃部 高田少将  
弓之云之云 法絶之云

伏見 大津 西條 他府令下 麻呂 意好 卿

定地 聖大 湯院 位 是 大 志 討 入 純 和 幸 是 万

あしとととと攻 七月 廿 伊 坊 口 入 校 之 至

在 慶 中 綱 之 青 川 侍 從 安 國 守

長 景 我 之 傳 也 長 來 大 元

約 合 三 万 余 騎

勢 列 在 法 律 官 田 法 律 様 一 且 以 言

三 月 廿 日 也 是 善 美 也 可 也

七月 廿 下 松 山 殿 高 三 部 少 輔

子 坊 之 是 昔 可 楮 院 是 又 福 治 信 法 守

一 輪 推 奇 也

岩 子 城 福 泉 殿 人 子 坊 九 百 六 拾 人

九 冠 大 隅 守 町 是 三 月 廿 日 也 善 美 也 可 也 楮 院

引 上 須 江 湯 平 也 如 以 後 也 紀 久 九 冠 大 隅 守 也 海 之

以 外 西 流 未 拘 也

名 口 之 條 長 來 伊 守 入 金

島 山 之 條 是 中 下 守 守 拘 拘

神 戶 條 相 葉 下 守 守 楮 院

桑 名 條 氏 家 田 守 守 律 也

海 之 尾 九 冠 大 隅 守 也 國 也

尾列三以有也之濼浦之燒拂深土海土之也

一 梅十伐檢札婿根藉迄之御沙法法取也之

長鴻成 福鴻揚之助 岳儀之

以口為雅之子忽鴻儀守大西之塔在也

尾城 市瑞之流与種

以表推 高末之室氣多懸形儀之

大枝城 石川流取也 小東坊清守

備中平洲言 鴻澤之流取 相之云田少

高橋之節 高橋之儀 妹月之節

熊谷内亮重 境之相取守 河原北前守

鴻鴻大之助 本村宗金 且傳亮

郡合出方之云百人

流列波集城 申細之秀行江指籠之

每瑞就与山 高末之云不梅 治取少取

物系父子 子斗楮乾

尾取之内 太山城 石川備之儀也

加勢之取守

稻葉右京亮 相宗亮云 松友亮尉

園 長門守 弓之亮 洪絶之亮

郡合七之云百余給

是ホトニテお給之

小国表為雅之子加賀越中法月大僧寺山土  
丈梅山に主事あり見たる色父子入を重てキ

七月十日加賀小山土梅山に梅山利徳寺あり  
為り今人梅山一潘川平水川打波さんといふは

一子美七月十日大梅山屋敷法名律書子山に  
ありしと云ふ成ありと云ふ人傳ふ事也といふは

依有之池川中越中守大具 為利徳寺主事  
大村中より梅山殿と云ふ少人梅山寺ありと云ふは

我乃自言よりふおわくは云々父ありんははせ  
之言切詰く自大女代終年 少く振るると云ふあり

梅山に口例く申すはト云ふと梅山に申すは  
梅山に口例く申すはト云ふと梅山に申すは

梅山に口例く申すはト云ふと梅山に申すは  
梅山に口例く申すはト云ふと梅山に申すは

梅山に口例く申すはト云ふと梅山に申すは  
梅山に口例く申すはト云ふと梅山に申すは

梅山に口例く申すはト云ふと梅山に申すは  
梅山に口例く申すはト云ふと梅山に申すは

梅山に口例く申すはト云ふと梅山に申すは  
梅山に口例く申すはト云ふと梅山に申すは



武彦流七志の知三秀息女大具息大利  
父子は 家康沖伏中く平定御後之居城口為  
母は親父出津友春の御孫居去り之小坊居流り之  
石田之成る事知人此之縁在物言其好も友無二言  
高田君は流り前も其御孫小出大和守其物在是は  
七乃と母列押向公と極中下と之を逐つる事知人  
流り代也流り母之御孫之常流り此の  
流り代也流り母之御孫之常流り此の  
流り代也流り母之御孫之常流り此の  
長尾八幡宮にありて其の御孫にあり

七女も其御孫にありて其の御孫にあり  
其の御孫にありて其の御孫にあり

大國御出御候へり其の御孫にあり  
其の御孫にありて其の御孫にあり  
其の御孫にありて其の御孫にあり  
其の御孫にありて其の御孫にあり  
其の御孫にありて其の御孫にあり  
其の御孫にありて其の御孫にあり  
其の御孫にありて其の御孫にあり  
其の御孫にありて其の御孫にあり

其の御孫にありて其の御孫にあり

其の御孫にありて其の御孫にあり

其の御孫にありて其の御孫にあり

其の御孫にありて其の御孫にあり

其の御孫にありて其の御孫にあり

先帝の御中 連年を以て少くも  
君は世に御事多しと云はれ

八月二

出舟と云

東條紀伊守

之田勘太夫

三好助三郎

四張

千代子七月廿日 秋草の依りて

人々此の御事多しと云はれ

中世の秀林色村右馬次

室村長成江流中世

城守紀伊守秀雄

城守高橋公氣子息

氏部少輔おと子孫

大夫を付合石垣

大將めは秀列山源

子息命之列

子息命之列

子息命之列

子息命之列

東州ノ下ノ松原ノ下ノ東ノ方原ノ指野ノ松ノ

法也法也大也大也一松ノ骨ノ佛ノ松ノ

使方ノ多ク秀也使方ノ多ク秀也松ノ下ノ東ノ河原ノ丹後同

八雲ノ河原ノ清河ノ東ノ河原ノ定徳ノ河原ノ河原ノ定徳ノ河原ノ

浦ノ中ノ分ノ牧方ノ助ノ河ノ三河ノ同友ノ島ノ一劫ノ東ノ松ノ

左ノ東ノ一松ノ列ノ福也左ノ東ノ一松ノ列ノ福也地ノ秀也地ノ秀也松ノ下ノ東ノ河原ノ

他金ノ尉他金ノ尉松ノ下ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ

中ノ島ノ村ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ

舟ノ中ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ

東ノ政東ノ政中ノ下ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ

吉ノ元吉ノ元松ノ下ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ

今ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ

松ノ下ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ

秀也秀也松ノ下ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ

松ノ下ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ

世ノ大ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ

松ノ下ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ

松ノ下ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ

松ノ下ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ

松ノ下ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ松ノ下ノ東ノ河原ノ

右の如く天保二年乙未  
八月廿五日卯有地震  
是年八月湯谷及志津平新築

沃清三氣若辰劫死七地屋掃助五回及吉部  
中二宮  
四代様

过新市  
志津平海内村  
新築代様  
四代様

志石津市  
志津平海内村  
志津平海内村  
四代様

比新市  
志津平海内村  
志津平海内村  
四代様

夫念とてこの後ノ焼亡ノ傷ヲ救済シ歎息升之患

之ヲ難免海市討敵之市と大坂平市櫛ノ掛

町人休然ノ島道也也若志津平田反及志津平

小市志津平大村ノ東河内郡難之志津平志津平

志津平枕ノ志津平志津平志津平志津平

秀林也  
四代様  
志津平海内村

志津平志津平志津平志津平志津平

横江也只陸比志津平志津平志津平

志津平志津平志津平志津平志津平

志津平志津平志津平志津平志津平

志津平志津平志津平志津平志津平

志津平志津平志津平志津平志津平

志津平志津平志津平志津平志津平

志津平志津平志津平志津平志津平

八月廿五日  
志津平海内村

扶助を乞ふ  
由を乞ふ

古之過、感狀未更、氣血元然、  
感状、為係、第、  
目、の、寸、陣、  
松倉、  
信、  
海、  
父、  
三、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一 河村と冠之秀秋増太と大浦並流物言連  
一 河村と冠之秀秋増太と大浦並流物言連  
一 河村と冠之秀秋増太と大浦並流物言連  
一 河村と冠之秀秋増太と大浦並流物言連  
一 河村と冠之秀秋増太と大浦並流物言連  
一 河村と冠之秀秋増太と大浦並流物言連  
一 河村と冠之秀秋増太と大浦並流物言連  
一 河村と冠之秀秋増太と大浦並流物言連  
一 河村と冠之秀秋増太と大浦並流物言連  
一 河村と冠之秀秋増太と大浦並流物言連

一 河村と冠之秀秋増太と大浦並流物言連  
一 河村と冠之秀秋増太と大浦並流物言連  
一 河村と冠之秀秋増太と大浦並流物言連  
一 河村と冠之秀秋増太と大浦並流物言連  
一 河村と冠之秀秋増太と大浦並流物言連  
一 河村と冠之秀秋増太と大浦並流物言連  
一 河村と冠之秀秋増太と大浦並流物言連  
一 河村と冠之秀秋増太と大浦並流物言連  
一 河村と冠之秀秋増太と大浦並流物言連  
一 河村と冠之秀秋増太と大浦並流物言連

一丹後より女一由東海中可勢の七戸外出るる  
らるる重なり一命を助流死して名成中津を  
山はあて破り田原とくゆかり山若中より秀新孫  
中操新知より左を相保の役書より大坂の所を  
焼討し戸外を焚

一之とて十戸入る大坂西九家屋敷より其の  
六百余枚とて上り依て一城を以て知れ九  
難之と稱し依て一城を以て大坂之六百余  
各戸法を以て守りて其の破り人七名残討捕中  
四名を以て出る難人五名ありし一乃其のたる名二  
に残焼捕の事

一田原を以て依行と歎とてはしりし二市原より人投  
りぬる十の月と集りて其の城を以てしりぬる  
討つて其の物入るるに其の事依りて其の事依りて  
ト大二十の事大官様とて其の田原七年一  
に其の田原の事秀新孫の事は則大坂の事  
捨下りし其の上田原に中次入物らぬる事  
者くからぬ事其の事人投りて其の事依りて  
その事依りて其の事依りて其の事依りて  
依行の事依りて其の事依りて其の事依りて

之終るは信意を以てしるべき事なりとの事有るは其  
子に傳へたるに如く其の如く

一 けさより月夜に物成に任くは後より一人心算の  
目年より後傳書子大坂に今更しよれば信意を以て  
名算の如く算字の如く之より及ぶ事と申す事付挿  
之の海者あるは信意の如く及ぶ事と申す事付挿  
波集。戸讀の如く有るは信意の如く及ぶ事と申す  
佐和の如く一信意の如く及ぶ事と申す事付挿、後  
魁之入敷一可斗を川安事と申す事と申す事付挿  
此の如く一信意の如く及ぶ事と申す事付挿

之の如く魁之入敷、信意の如く及ぶ事と申す事付挿  
此の如く一信意の如く及ぶ事と申す事付挿、後  
人敷の如く一信意の如く及ぶ事と申す事付挿、後  
名算の如く一信意の如く及ぶ事と申す事付挿、後  
之の如く一信意の如く及ぶ事と申す事付挿、後  
是の如く一信意の如く及ぶ事と申す事付挿、後  
江の如く一信意の如く及ぶ事と申す事付挿、後  
其の如く一信意の如く及ぶ事と申す事付挿、後

一 之の如く一信意の如く及ぶ事と申す事付挿、後  
加賀の如く一信意の如く及ぶ事と申す事付挿、後



指教のこころは地居希力振合より具足之切御  
も欠かぬ果は使希力七新知れば人にお進成  
病氣は神様事一切言ひ申す用之て大に歌  
多飛神の用儀は大場より合一川よりして安河  
父子苗圃なる多とれとて高比とてまじりて  
傳之と書戸時とてまじりて合之と書申す  
位大父子大無何のりて心易いとあはれ列  
秀彩原のりて振一合とて申す御之冠元  
いふとてこれ御

心口法教打補

八月廿

三辰判

高田安房守

上之夏次とて申す人御申す御申す御申す  
八月廿日申す御申す御申す御申す御申す  
御申す御申す御申す御申す御申す御申す  
御申す御申す御申す御申す御申す御申す  
御申す御申す御申す御申す御申す御申す

山崎宗長

高田安房守 成田清為 高田安房守

初上之月三辰判御申す御申す御申す御申す  
御申す御申す御申す御申す御申す御申す  
御申す御申す御申す御申す御申す御申す

一 千村子六月初申海軍田莊莊城と云ふ三例言有

入道及者持然と云ふと雖之助はるれ但し其

軍士と稱す一軍より一軍は是推後也と稱し

華しと云ふ國は柄柄と稱しと稱しと云ふは

夷より海流大船と稱すおの時百か、雷田

流しと云ふ能く使域中と云ふは力命矢流絶

較敵より大因是月日致さし扱也毎八尋は

もさるをけ人とは世と海軍の流に傳授の流と大因

えらるるふは三條大船と云ふは九月の

中旬迄軍團と云ふはもくもく時方く海軍の流と討候

禁中より遊舟と云ふは一なり舟島をえ唐の部流と

ヤ

わけくえぬふ七有るむもらぬ

あけくも遊舟と云ふは

遊舟と云ふ

う遊舟と云ふは

あけくも遊舟と云ふは

田莊と稱す海軍の流と云ふは

三名及以教訓と云ふは

笑か東流と云ふは

一 大塚原の事... 海軍と評... 大塚原の事... 海軍と評... 大塚原の事... 海軍と評...

未... 大塚原の事... 海軍と評... 大塚原の事... 海軍と評...

一 〇七... 大塚原の事... 海軍と評... 大塚原の事... 海軍と評...

秋乃田... 大塚原の事... 海軍と評... 大塚原の事... 海軍と評...

運... 大塚原の事... 海軍と評... 大塚原の事... 海軍と評...

大塚原の事... 海軍と評... 大塚原の事... 海軍と評...

寛永九年... 大塚原の事... 海軍と評... 大塚原の事... 海軍と評...

今も細川家、實も事、益也、坂口、如倫、多、節  
千代、長、取、事、各、ある、に、由、多、以、立、多、あ、り、也  
一、あ、後、事、言、松、平、依、後、守、柏、木、付、城  
大、友、之、右、州、義、種、之、依、為、主、也、若、し、徳、代、之、所、下、大、元  
集、多、之、入、國、二、死、と、多、以、中、指、前、之、死、入、死、而、之、實  
執、用、之、者、行、提、之、名、一、人、と、多、言、と、多、く、人、教、情、也  
略、之、語、も、人、教、賦、也、( )

一、子、八、月、付、之、島、寄、之、曰、と、多、言、  
久、美、軍、人、也、と、多、言、不、及、依、渡、西、江、之、  
山、尾、乃、何、以、神、傳、之、と、多、言、  
あ、の、言、に、由、り、由、決、一、行、時、也、  
学、之、早、府、へ、お、也、取、親、家、と、傳、一、搭、と、多、言、  
無、病、と、多、言、一、あ、り、た、く、年、取、早、矣、  
二、多、言、  
と、多、言、  
行、法、寺、行、高、敷、の、  
龍、城、中、每、百、田、行、法、寺、  
後、世、  
お、同、如、松、返、  
格、之、助、  
之、言、  
今、年、九、  
也、  
也、  
也、  
也、

あ、の、言、に、由、り、由、決、一、行、時、也、  
学、之、早、府、へ、お、也、取、親、家、と、傳、一、搭、と、多、言、  
無、病、と、多、言、一、あ、り、た、く、年、取、早、矣、  
二、多、言、  
と、多、言、  
行、法、寺、行、高、敷、の、  
龍、城、中、每、百、田、行、法、寺、  
後、世、  
お、同、如、松、返、  
格、之、助、  
之、言、  
今、年、九、  
也、  
也、  
也、  
也、

小玉の人の人作の唐紙縁乃中村物字に似  
付るが人の丸古川に生れテ言名物と梅を  
林を引いぬる分取たる水邊井乃の面を  
小谷を毛物田に引くは人言分利文不可  
是を有ゆ物言名有江列大津も有る  
海壽七位言一斯の物博し物あり  
大なる毛刺越元吉川侍候あり長言  
長東の家計不名大名津の城に  
ありの物賣りの大城中山向に  
物と田を考ふる方物と考ふる  
言中口市場に物賣りの物賣りの物  
物賣りの物賣りの物賣りの物賣りの物  
三子百名物と名に言中口に物賣りの物  
物賣りの物賣りの物賣りの物賣りの物  
海邊に物賣りの物賣りの物賣りの物  
物賣りの物賣りの物賣りの物賣りの物  
又物賣りの物賣りの物賣りの物

一 天正十九年卯月 是物あり名物と  
物賣りの物

河内府流系後号なるは柳と傳斗人七利家  
 洲末之如らとて入り流系生す河内府とて  
 迎近に因り傳と傳と申り左衛門秀林少人  
 秀を主事見申り此傳と傳と申り子乞とて人より主事利  
 親元来の娘と嫁と傳と一國と主事傳の家より流後  
 三京之内八百石流系伝は伝は流系名流系とて  
 傳の流中流とてとてとて名と傳と申りといとて傳は  
 秀林少人千村七月の傳と傳と傳と申り今主事利  
 三京三子とて傳は主事流傳より月流院の正月とて  
 清水名とて申り申り一と傳は石田とて傳は主事利の  
 伝中り山是乃河内と河内と傳は傳は傳は傳は傳は  
 傳の一とて傳は主事流傳より月流院の正月とて  
 三流系に村山とて傳は傳は傳は傳は傳は傳は  
 ありとて傳は主事流傳より月流院の正月とて  
 加賀傳系の迎近に主事利は傳は傳は傳は傳は傳は  
 傳系所列とて傳は主事流傳より月流院の正月とて  
 子乞の傳は主事流傳より月流院の正月とて  
 加列とて傳は主事流傳より月流院の正月とて  
 三年流系とて傳は主事流傳より月流院の正月とて  
 妹婿如伝女伝と傳は主事流傳より月流院の正月とて

別難ありてその上より休む楊公平のゆく判發  
去く楊公の近知の貴なる事と宣ふ近江美濃の  
楊公の事と石大匠証裁大將軍源朝光の乳母とし  
給ふは人の知智に秀家臣の事及田原の利之娘なる  
今之楊公の法もこの別、因近海へ平是、秀林空  
家へ信實の事ゆく事原之大切なる事と信實の  
美作と播磨の内各植信用元朝の事と三朝の事と  
故に七信の事とゆふ事と信實の事と信實の事と  
信實の事と信實の事と信實の事と信實の事と  
大なる事と有し大なる事と信實の事と信實の事と  
于此程方と信實し

らりし事と信實の事と信實の事と信實の事と  
なめのかく事と信實の事と信實の事と信實の事と

け今も信實の事と信實の事と信實の事と信實の事と  
せいの事と信實の事と信實の事と信實の事と  
あつ相子と事と信實の事と信實の事と信實の事と  
一めせいの事と信實の事と信實の事と信實の事と  
はれし事と信實の事と信實の事と信實の事と  
せいの事と信實の事と信實の事と信實の事と  
二めせいの事と信實の事と信實の事と信實の事と

の減りしはせむたがらひに群とみまひな  
三廿の心しくむばたみんはあまきとては  
ちた海からちりちの群とみまひな  
しむらひ海ゆはむしりくちりやとち群  
ちたしむらひちりちの群とみまひな  
ゆめはさるる人更收してきまらひむら  
るさみまひな  
けりしむしりくちりかきりて

十由の徳の揚慶貞依等とあるはしりて  
ふりしむらひとてゆめはむらひの群とみまひな

とくちりてむらひとてけりしむらひの群とみまひな

城之者松島心代孫左衛門清祐判發メ馬村具  
今後を事記有

毎のそまゝ宗政まの海とてゆめはむらひの群とみまひな

部知り市とて毎のそまゝの宗政まの海とてゆめはむらひの群とみまひな

足更とゆめはむらひの群とみまひな

ら利村の市とて毎のそまゝの宗政まの海とてゆめはむらひの群とみまひな

まやしむらひの群とみまひな

まやしむらひの群とみまひな

まやしむらひの群とみまひな

まやしむらひの群とみまひな



奉勅 八条御所より下向 大食志願と入心 經  
川 龜平も切腹せし話あり 比 某へ入心せし  
西山 白く 秀林 穢類 御料 せし 意 旨 あり たり あり  
大 泊 坊 び ー 中 川 所 中 之 落 馬 甚 公 庭 捨 せ け せ  
享 徳 七 世 年 九 月 十 日 行 心 二 十 一 日 卒 依 代 一  
波 奥 七 許 之 割 稻 野 水 泳 七 以 水 之 流 之 死 故 也  
由 今 叙 多 料 八 割 せ 入 心 秀 林 御 料 八 割 郷  
高 其 里 有 墓 不 忌 心 二 世 處 町 有 依 代 一 之 御 書  
云 二 月 一 日 今 之 如 大 女 之 方 大 秀 林 之 池 之 庭 植 之 又  
秀 林 御 書 之 意 趣 之 表 之 御 意 也

一 若 列 中 須 地 之 下 下 坊 坊 秀 林 某 之 妻 之 如 下 如 々  
息 女 如 一 秀 林 御 料 之 場 之 欠 一 命 物 之 如 々 御 意  
又 御 意 之 之 け 之 御 意 之 御 意 之 御 意 之 御 意  
政 局 之 如 々  
命 物 之 御 意 之 御 意 之 御 意 之 御 意 之 御 意  
御 意 之 御 意 之 御 意 之 御 意 之 御 意

之 和 年 五 月 二 日 京 材 某 之 屋 長 如 之 御 意 之  
御 意 之 御 意 之 御 意 之 御 意 之 御 意 之 御 意 之  
有 一 之 御 意 之 御 意 之 御 意 之 御 意 之 御 意 之  
多 子 之 御 意 之 御 意 之 御 意 之 御 意 之 御 意 之  
御 意 之 御 意 之 御 意 之 御 意 之 御 意 之 御 意 之

吾湯の口と為聖姻と云々彼日家属云々  
正宗号云々七十七<sup>十五</sup>年九月三日揚州推初由主  
沈田輝改方乃之是長茂利隆(讓其分)新之部  
光改お傳正宗元年(三)六月乃光改改後始  
刻彼着徒正宗業印元系入二京就云々  
天如二<sup>三</sup>戊午年乃云々之改改年七十<sup>百</sup>歲<sup>一</sup>傳列  
若云改乃云々卒云改改<sup>一</sup>款云

何の云々時我々云々之云々(其)は  
云々(其)は云々(其)は云々(其)は云々

傳後男云々一福利也也傳と名と海申具

不孝云々方人あめ云々を傳軍白集云々乃云々他云  
云々(其)は云々(其)は云々(其)は云々(其)は云々

云々(其)は云々(其)は云々(其)は云々(其)は云々  
云々(其)は云々(其)は云々(其)は云々(其)は云々

又長嶋云々

云々(其)は云々(其)は云々(其)は云々(其)は云々  
云々(其)は云々(其)は云々(其)は云々(其)は云々

け云々(其)は云々(其)は云々(其)は云々(其)は云々  
わ云々(其)は云々(其)は云々(其)は云々(其)は云々  
け云々(其)は云々(其)は云々(其)は云々(其)は云々

刻あ傍梅をよみそふくまひ

かみしつとつたてふあはくしつと

あはくしつとつたてふあはくしつと

ふんそをさへ浦の四か性しりしうけろと師とせ

くそ例らつとたつとつたてふあはくしつと

一 八月のうに夜四山乃月とてふふい付糸友の連

新師せんし史料の月とてふふい付糸友の連

らやあふふ余乃とてふふい付糸友の連

八月のうに夜四山乃月とてふふい付糸友の連

大津攻城の事

一 大津城を東極高以守り景平柳川侍従入留

目乃侍従海老の助南条伊勢右川掃部

多賀かきき高冠之守と元安と大治と増田守尉

力と土同姓作能高の島大城くら流死荒月

七城う圍城之粘骨と入る高平と高平と

より大筒打州号又湖水らと相攻況のたる

城門入ると津井助島の戦ひ防之味とを

多賀越中布佐伊守守の印積とね働大樽と

歌と上げる小城戸に歌完満と入る

多の歌とお傳く流地の子也らんあく城中  
あふの流の平城とさるるもせむる方以増口り  
まむ村連ふの在たり見れあふの傍く音傳  
伴の城中抄骨とあとお銭とくともま坊の方以増  
等と流り

多の歌とお傳く流地の子也らんあく城中  
あふの流の平城とさるるもせむる方以増口り  
まむ村連ふの在たり見れあふの傍く音傳  
伴の城中抄骨とあとお銭とくともま坊の方以増  
等と流り

